

様式(第 5 条関係)

会 議 録

会議の名称	第 1 回 滑川町下水道事業審議会
開催日時	令和 6 年 7 月 3 1 日(水) 午前 1 0 時 0 0 分から 令和 6 年 7 月 3 1 日(水) 午前 1 1 時 2 0 分まで
開催場所	滑川町役場 2 階 中会議室
出席者	委員 12 名 別紙のとおり 滑川町長 事務局 上下水道課 宮島課長、西須 日本会計コンサルティング 南澤氏
会議内容	開会 あいさつ 委嘱状の交付 会長及び副会長の選出 町長より審議会への諮問 議事 下水道使用料の改定 閉会
会議資料	次第 委員名簿 説明資料
会議録の 作成方針	☐ 録音テープを使用した全文記録 ☐ 録音テープを使用した要点記録 ☒ 要点記録
	記録内容の確認方法 会議録の配布
その他の 必要事項	

審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）
1. 開会 （司会 宮島課長） 2. あいさつ 大塚町長よりあいさつ 3. 委嘱状交付 代表で吉野委員に交付 4. 自己紹介 委員、事務局の自己紹介 5. 会長及び副会長の選出 事務局案を提示 会長 吉野委員 副会長 大塚委員 に決定 会長、副会長よりあいさつをもらう 6. 町長より審議会への諮問 町長から吉野会長へ諮問書の提出 7. 議事 ・下水道使用料の改定について 今後の経営健全化のために使用料改定を諮問 ・現在の状況について 汚水処理普及状況として、町の 90%以上下水道整備が済みであり大幅な収入増加は見込めない 水洗化率（下水道に繋いでいる割合）90%後半である ・今後の経営課題 R 5 公営企業会計移行前から、基準外繰入金が多いため削減し使用料で賄う必要がある ・課題を踏まえて取り組むこと ① 下水道事業単独で黒字経営ができるかを検証する ⇒独立採算制の考え方 ② 繰入金に依存しない経営課題 ⇒今後社会補償への充当額増加を考えると、繰入金の下水道事業への増加は難しい

③ 下水道事業が使用料で経費を賄っている状態か

⇒次回以降の経営戦略で説明が必要

本審議会で答申をいただいた場合は、令和8年4月1日からの改定を検討する

今後3回ほど審議会を行う予定である。

質疑応答

Q稲葉委員：繰入金を依存しない経営を目指す繰入金が出てしまう場合はどうするか

→理想は繰入金を0にしたいが現状は無理なので、今回改定後10年後に改めて検討する。

基準内繰入金は認めているため、基準外繰入金を削減する方向

Q矢部委員：企業債償還とは

→本管設置や処理施設の工事の財源として金融機関から借りたものを返済すること

Q吉野議長：企業債償還は繰入金で補填されるのか

→詳細は交付税措置は不明だが該当する

Q神田委員：下水道使用料に対しどのくらい年間で未収金はどのくらいあるか

→90%以上は回収できている、金額は使用料収入約1.8億円に対し1割

Q大塚副議長：使用料改定に伴い、3事業で統一の料金体系にすることは検討しているか

→本審議会の中で検討していく

本審議会では公共下水道事業と農業集落排水事業で改定を検討

浄化槽事業はスケールメリットを考慮し、将来改めて考えていく

Q吉野議長：以前公共下水道と農業集落排水が入る地域は入らない区域とどちらが得であるか上下水道課に確認したことがある。その資料を示してほしい。

→次回説明する

8. 閉会 （大塚副会長）

滑川町下水道事業審議会委員名簿

No,	役職	氏 名
1	会長	吉野 正浩
2	副会長	大塚 文行
3	委員	内田 敏雄
4	委員	小澤 実
5	委員	神田 明
6	委員	檀原 美明
7	委員	武井 宏道
8	委員	大山 尚美
9	委員	石井 邦久
10	委員	飯塚 比呂志
11	委員	吉澤 稔
12	委員	稲葉 一正
13	委員	池内 由美子
14	委員	矢部 紀雄